

# 札幌市 スポーツ 推進計画

改定版 2013年度～2022年度

〈概要版〉

「スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる」

スポーツ元気都市さっぽろ





# 札幌市スポーツ推進計画(改定版)

## 概要版

### 目次

第1章	スポーツ推進計画の策定	1
第2章	スポーツ推進計画の見直しに当たって	2
第3章	スポーツを取り巻く現状と課題	3
第4章	基本理念と目標	9
第5章	目標達成に向けた方針・施策	10
第6章	計画推進のための取組	15

## 「スポーツ」とは

スポーツ基本法の前文では、「スポーツ」は次のように定義されています。

心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、  
自律心その他の精神の涵養<sup>かんよう</sup>等のために  
個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動

スポーツには、することによる楽しさや喜びだけでなく、心身の健全な発達、体力の保持増進、健康寿命の延伸など様々な効果があります。

そのため、札幌市スポーツ推進計画においても、スポーツとは、競技のようなルールに則り他者と競い合うものだけでなく、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行われるものであり、健康づくりのための散歩やジョギングなどの軽い運動、また身体を動かすレクリエーション活動なども含むものとしています。

札幌市では、市民のスポーツへの関わり方の広がりなどを背景に、平成15年(2003年)3月に「札幌市スポーツ振興計画」を策定し、「する・みる・支える」という3つの視点から、市民が様々な機会ですぐにスポーツに親しむことができるように、スポーツ施設の整備、イベントや競技大会の開催・誘致等を行ってきました。

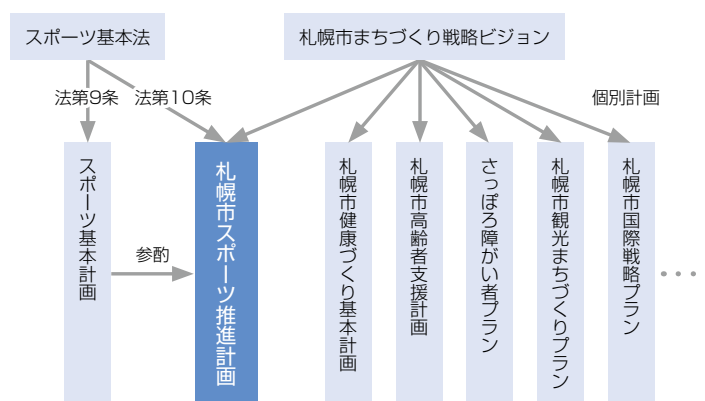
その後、国が策定した「スポーツ基本計画」や、札幌市が策定した「まちづくり戦略ビジョン」の考え方などを踏まえ、平成26年(2014年)2月には、札幌市スポーツ振興計画を引き継ぐ計画として、「札幌市スポーツ推進計画(以下、「推進計画」という。)」を策定しています。

## 1 計画策定の目的

推進計画は、市民が、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、それぞれの関心、適性等に応じてスポーツに参画する環境を整備し、スポーツの力をもって、青少年の健全育成、生涯を通じた健康の維持、地域コミュニティの再生、そして札幌市の活力の創造に寄与することを目的として策定しました。

## 2 計画の位置づけ

推進計画は、スポーツ基本法第10条に基づく地方スポーツ推進計画として策定するもので、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の個別計画として位置づけられるものです。



## 3 計画期間

推進計画の計画期間は、平成25年度(2013年度)から令和4年度(2022年度)までの10年間としています。

国においては、スポーツ庁が発足し、これまで複数の省庁で行っていたスポーツ関連業務や権限を一元化したほか、「第2期スポーツ基本計画」が公表されました。

札幌市においても、冬季オリンピック・パラリンピックの招致を表明するとともに、ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック競技大会の開催地の一つに選ばれたほか、スポーツを通じたまちづくりを総合的に推進するため、スポーツ局を新設するなど、スポーツを取り巻く環境も大きく変化してきました。

札幌市では、こうした環境の変化を捉え、これまでの計画の進捗状況なども踏まえながら、このたび、更なるスポーツ振興を目指して、推進計画の見直しを行うことにしました。

### 1 国の動向

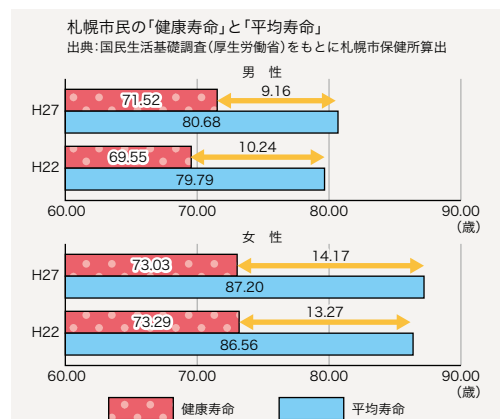
- 平成27年(2015年)10月 スポーツ庁発足
- 平成29年(2017年)3月 第2期スポーツ基本計画公表

### 2 札幌市を取り巻くスポーツ環境の変化

- 平成26年(2014年)11月 冬季オリンピック・パラリンピックの招致表明
- 平成28年(2016年)3月 さっぽろグローバルスポーツコミッション設立
- 平成28年(2016年)4月 札幌市スポーツ局の設置
- 平成29年(2017年)2月 第8回冬季アジア札幌大会の開催
- 令和元年(2019年)9月 ラグビーワールドカップ2019™の開催
- 令和2年(2020年)7月 東京2020オリンピック・サッカー競技の開催

### 3 超高齢社会の到来

平成27年(2015年)における札幌市の男性の平均寿命は80.68歳、女性の平均寿命は87.20歳まで延びています。市民が健康で生きがいに満ちた生活を送るためには、平均寿命だけではなく、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である「健康寿命」を延ばしていくことが重要です。健康寿命を延ばし、平均寿命との差をできるだけ短くしていくためには、スポーツが果たす役割は大きくなっていくといえます。

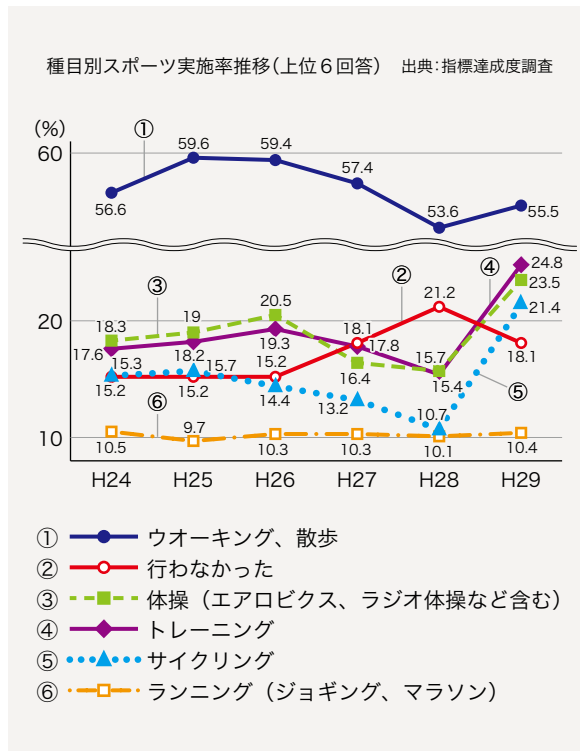
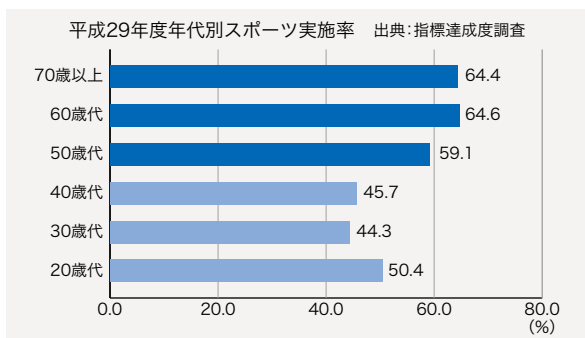
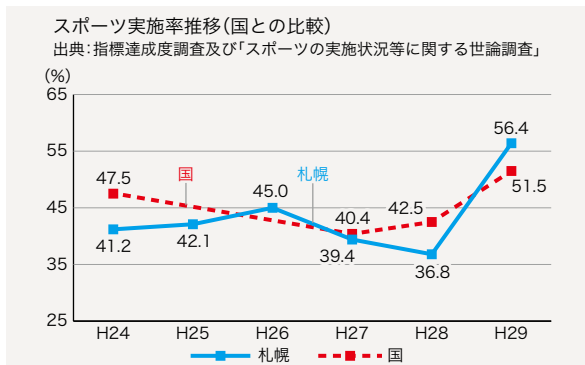




## 1 これまでの達成状況と課題

### ①スポーツ実施率〔平成25年度:42.1%→平成29年度:56.4%〕

- 札幌市におけるスポーツ実施率は、平成26年度(2014年度)の45.0%をピークに減少傾向でしたが、平成29年度には、調査開始以来最高となる56.4%まで上昇しました。これは、近年、身近な健康づくりを促進する取組を展開してきたことや、調査を国に合わせて、市民の健康づくり活動をより的確に捉えられる内容に見直したことで実態に則した活動状況が反映されたものと考えられます。

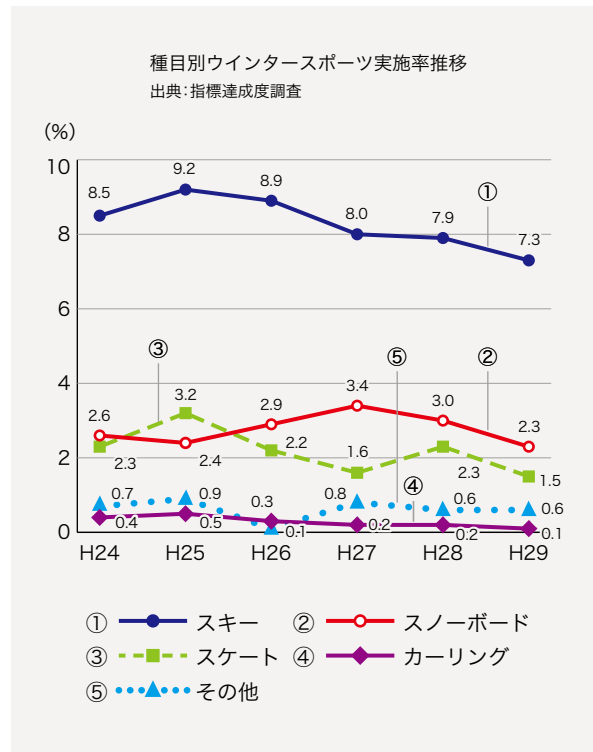
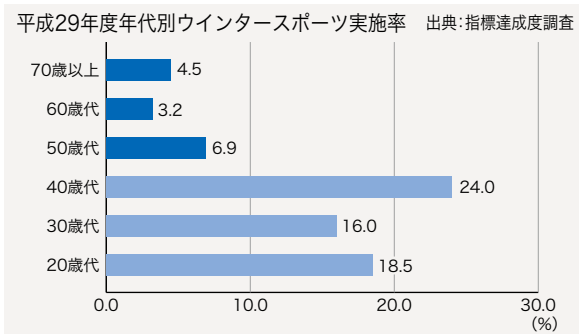
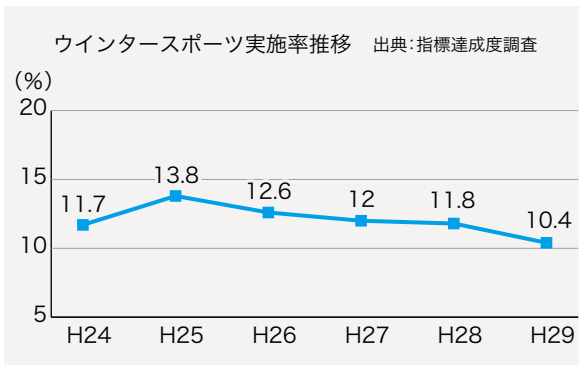


#### 【課題】

- 健康寿命の延伸が大きな命題となる中で、ニーズが高い「ウォーキング・散歩」に代表される、気軽にできるスポーツに親しめる環境整備が必要である。
- 種目別では「ウォーキング・散歩」が最も行われている一方で、積雪期間においてはこのような屋外で行う運動が制限される。
- 年代別スポーツ実施率では20～40歳代が低く、これらの世代に代表されるビジネスパーソンや子育て世代に対する取組が必要である。

## ② ウィンタースポーツ実施率〔平成25年度：13.8%→平成29年度：10.4%〕

- 札幌市のスポーツ文化の一つであるウィンタースポーツを振興するため、これまでも、市民が楽しくウィンタースポーツを実施したり、観戦したりすることができる環境づくりを進めてきました。
- ウィンタースポーツ実施率については、その目標値として25%を掲げ、様々な事業を展開していますが、近年はやや減少傾向で推移しており、平成29年度(2017年度)の調査では10.4%に留まっています。



### 【課題】

- ウィンタースポーツ特有の阻害要因に用具購入や施設利用料の負担などの経済的要因がある。
- ウィンタースポーツの振興には、体力や年齢などの個人差に配慮した幅広い年代が参加できるきっかけづくりや気軽に参加できる冬季に行えるスポーツメニューの提示などの取組が必要である。

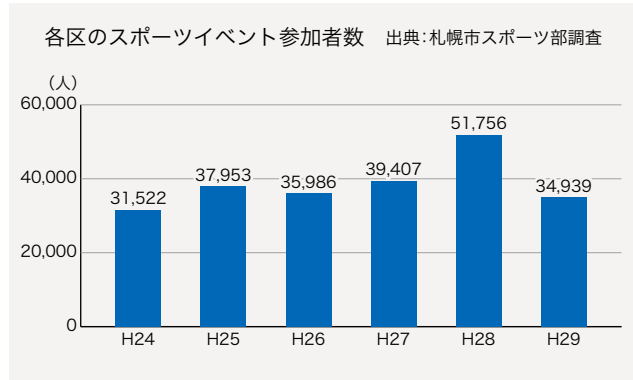
### ③各区で実施するスポーツイベントの参加者数(平成25年度：37,953人→平成29年度：34,939人)

- 地域で身近にスポーツを親しむことができる機会は、地域住民の交流の場となり、地域コミュニティの醸成につながります。

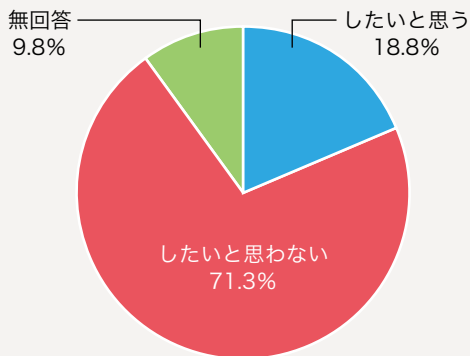
- 平成28年度(2016年度)には2017冬季アジア札幌大会の開催に伴う関連イベントなどにより、目標値である50,000人を達成しました。しかし、平成29年度(2017年度)においては、このような大規模イベント

の開催がなかったことも影響してか、平成27年度(2015年度)以前の水準に減少しています。

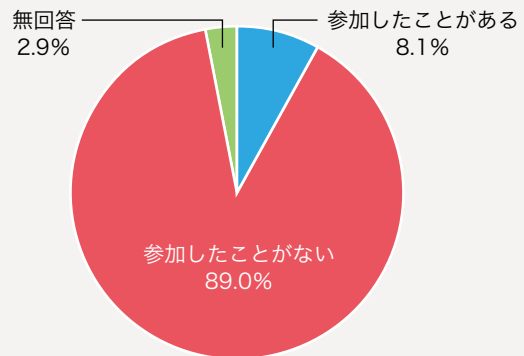
- 地域単位のイベントから大規模なスポーツイベントまで、地域におけるスポーツの場は、多くのボランティアに支えられています。



スポーツボランティアに参加したい人  
出典：平成29年度第2回市民意識調査



スポーツボランティア参加経験  
出典：平成29年度第2回市民意識調査



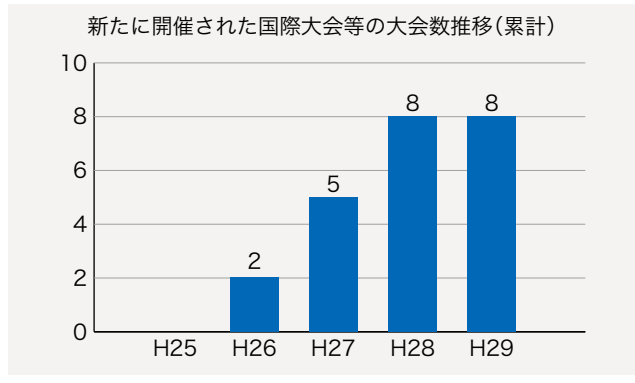
#### 【課題】

- 引き続き地域スポーツクラブなどと連携し、各区や地域単位で実施するスポーツイベントの開催や支援を行うことで、世代間交流や地域間交流による活動を促進する必要がある。
- スポーツイベントを支える担い手であるボランティアに市民が参加しやすい環境を整備する必要がある。



## ④ 計画期間中に新たに開催する大規模な全国大会や国際大会の大会数(累計) 〔平成29年度末:累計8大会〕

- 大規模なスポーツイベントの開催は、市民がトップレベルのスポーツにふれる機会を増やし、街に活力を与え、観戦文化の醸成につながるものといえます。
- 札幌市では、平成25年度(2013年度)から平成29年度(2017年度)までの間に選手、役員、観客を合わせて1,000人以上が参加する大規模な大会をすでに8大会開催しました(継続開催は除く)。



- 今後、2019年度にはラグビーワールドカップ™、2020年度には東京オリンピック・パラリンピック競技大会と世界が注目するスポーツイベントが続きます。

札幌で開催された大規模スポーツイベント(冬季オリンピック開催以降)

開催年度	大会名称	開催年度	大会名称
昭和46年	第11回オリンピック冬季競技大会札幌大会 宮様スキー大会国際競技会(昭和5年以降、継続開催)	平成15年	第22回アジア野球選手権大会
昭和48年	第29回国民体育大会冬季大会スケート競技会	平成17年	FISワールドカップクロスカントリー大会
昭和49年	IIHF世界アイスホッケー選手権大会	平成18年	FIBAバスケットボール世界選手権 世界バレーボール選手権大会 FISノルディックスキー世界選手権大会
昭和54年	FISワールドカップスキージャンプ大会(以降、継続開催) FIS札幌国際スキーマラソン大会(以降、継続開催)	平成20年	IIHF世界アイスホッケー選手権大会
昭和60年	第1回アジア冬季競技大会	平成21年	第25回アジア野球選手権大会 第65回国民体育大会冬季大会スキー競技会
昭和62年	北海道マラソン(以降、継続開催) ツール・ド・北海道(以降、継続開催)	平成25年	FIVB女子バレーボールワールドグランプリ
平成元年	第44回国民体育大会 第2回アジア冬季競技大会	平成26年	FISワールドカップノルディックコンバインド大会 世界女子カーリング選手権
平成2年	第15回冬季ユニバーシアード大会	平成27年	平昌オリンピック アイスホッケー2次予選 FISワールドカップスノーボード大会 ISUグランプリNHK杯フィギュアスケート競技会
平成5年	FISワールドカップノルディックコンバインド大会	平成28年	FISワールドカップノルディックコンバインド大会 第8回アジア冬季競技大会(2017/札幌) IPCノルディックスキーワールドカップ
平成6年	FISワールドカップクロスカントリー大会		
平成12年	FISワールドカップスノーボード大会		
平成14年	FIFAワールドカップ		

### 【課題】

- 今後はイベント開催だけでなく、観光振興、交流人口拡大等の経済・地域の活性化が重要

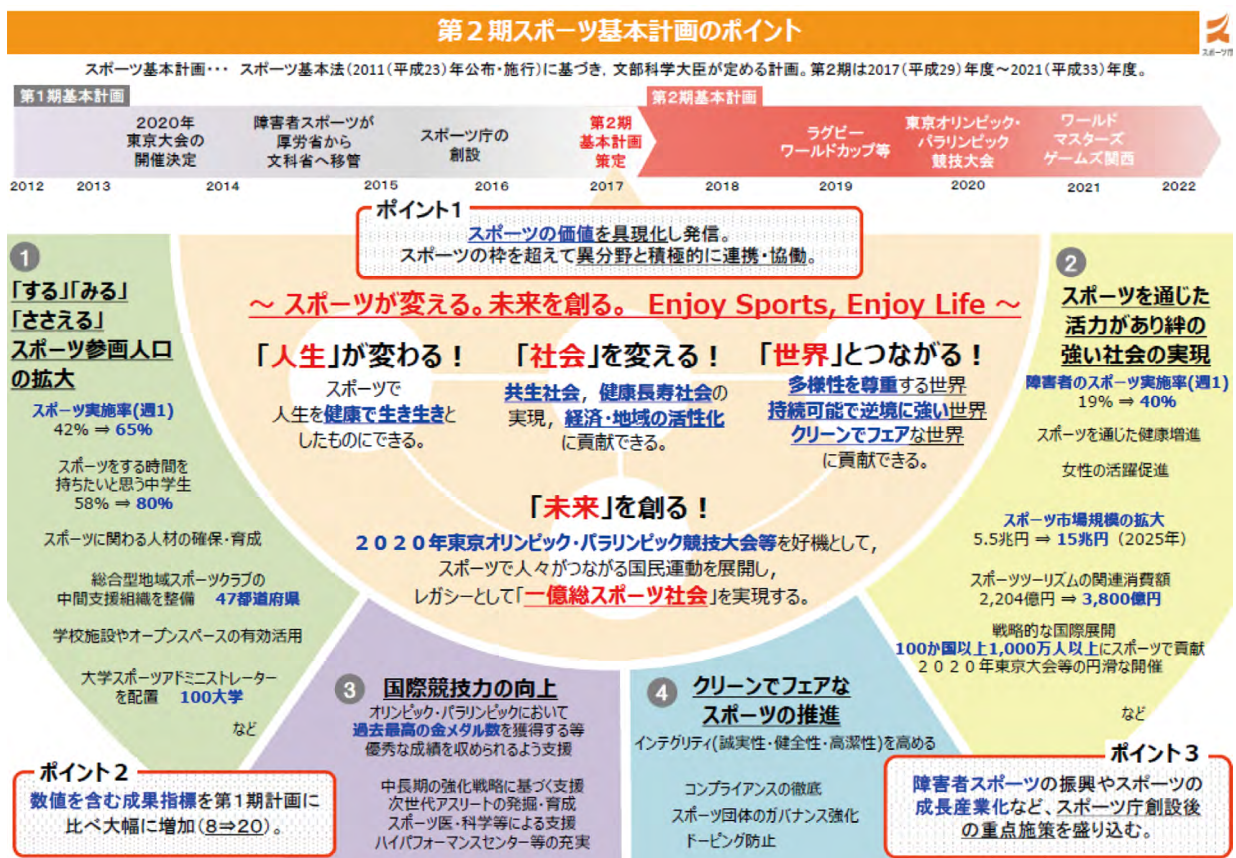
## 2 第2期スポーツ基本計画から取り入れる視点

### (1) 第2期スポーツ基本計画

国が平成29年(2017年)3月に公表した「第2期スポーツ基本計画」は、平成29年度(2017年度)から2021年度までを計画期間とし、スポーツ参画人口を拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことを基本方針としています。

札幌市では、引き続き市民がスポーツに親しめる環境を整えていくため、札幌市の現状も加味しながら、この第2期スポーツ基本計画に盛り込まれた視点を踏まえて、計画の見直しを行います。

第2期スポーツ基本計画のポイント (出典：スポーツ庁 HP <http://www.mext.go.jp/sports/>)



### (2) 第2期スポーツ基本計画におけるキーワード

札幌市では第2期スポーツ基本計画を参酌しスポーツ推進計画を見直していく上で、次の3点をキーワードとして捉え、今後の方向性を検討します。

- ① スポーツ参画人口の拡大
- ② スポーツを通じた共生社会の実現
- ③ スポーツを通じた経済・地域の活性化

## 3 札幌市の特色をいかして強化する視点

### (1) ウィンタースポーツの振興

雪国である札幌市にとって、厳しい冬の生活環境の中でも、雪を楽しむウィンタースポーツはまちににぎわいを与える大切な文化の一つといえます。

今後もウィンタースポーツの振興を重点的な施策と位置づけ、子どもの頃からウィンタースポーツに親しめる機会を増やしていきます。また、札幌市ならではのライフスタイルとしてウィンタースポーツの魅力を体感し、その魅力を発信する人々を増やすことで、「さっぽろ」の都市ブランドを高め、シビックプライドの醸成を目指します。

### (2) 冬季オリンピック・パラリンピックの招致

冬季オリンピック・パラリンピックの招致を通じて、札幌のウィンタースポーツ都市としての存在感を高め、アジア、そして世界に誇るウィンタースポーツの拠点都市を目指して取り組んでいくとともに、大会を契機に、国や地域、文化、言葉、そして障がいの有無などの違いを超えて、誰もがこの札幌・北海道で集い、互いを尊重し合える共生社会を実現し、真の国際都市として、世界に名を馳せられるよう、取り組んでいきます。

## 4 課題のまとめと今後の方向性

### (1) これまでの取組に対する課題のまとめ

これまでの取組から見えてきた課題や第2期スポーツ基本計画による新たな視点を取り入れて、引き続き「市民」に着目してスポーツ参画人口の拡大を図るとともに、スポーツの力による共生社会の実現や経済・地域の活性化を目指し、より活力ある「さっぽろ」に向けて取り組んでいきます。そして、未来の冬季オリンピック・パラリンピックの招致も見据え、「世界」が憧れるまちを目指します。

### (2) 今後の方向性

#### 方向性1 「市民」へのアプローチ

子ども、ビジネスパーソン、女性、高齢者などあらゆる市民が、「する」、「みる」、「ささえる」といった、それぞれのライフステージや活動の目的に沿った形でスポーツに参加することで、心身の健康や生きがいを得ることができるように取り組んでいきます。

#### 方向性2 「さっぽろ」全体へのアプローチ

スポーツを通じて人々がつながり、スポーツの価値を共有することで、他者への理解を促し、多様な人々とともに生きる共生社会の実現を目指します。また、スポーツを地域の魅力づくりやまちづくりの核として活用することで、経済や地域を活性化し、活力みなぎる「さっぽろ」を目指します。

#### 方向性3 「世界」へのアプローチ

冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致や国際大会の開催などを通じて、アジアにおけるウィンタースポーツ拠点都市を目指すとともに、札幌の魅力を世界に向けて発信することで、世界都市として北海道をリードしていくまちを目指します。

## 1 基本理念

～スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる～  
スポーツ元気都市さっぽろ

## 2 3つの目標

### 目標1 スポーツの力で「市民」が かがやく

市民が地域で「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに関わり、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指します

### 目標2 スポーツの力で「さっぽろ」を かえる

スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで、より活力ある「さっぽろ」を目指します

### 目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

世界が憧れるまちを目指し、冬季オリンピック・パラリンピックの招致や、国際大会の開催などを通じてウインタースポーツ拠点都市としてのブランドを高め、その魅力を発信し、世界につながることを目指します。

## 3 成果指標と目標数値

「スポーツ元気都市さっぽろ」の実現のため、具体的な成果指標と、その目標数値を定めています。

成果指標		基準値	現状値	目標値
		平成24年度(2012年度)	平成29年度(2017年度)	2022年度
①スポーツ実施率	20歳以上・週1回以上	41.2%	56.4%	65.0%
	障がい者・20歳以上・週1回以上	—	43.7%	50.0%
②ウインタースポーツ実施率(18歳～49歳・年1回以上)		—	20.1%	25.0%
③直接スポーツ観戦率(18歳以上・年1回以上)		—	43.6%	50.0%
④ウインタースポーツ目的の来札外国人観光客数(1月～3月)		—	175,000人	250,000人

### 1 施策体系

第4章で掲げた3つの目標を達成するため、7つの方針と15の施策を定めています。

3つの目標		7つの方針		15の施策	
目標1	スポーツの力で「市民」が かがやく	1	ライフステージや 体力に応じたス ポーツ活動の推進	1	子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソン のスポーツ参加を目指します
				2	スポーツに親しむための場所や機会を充実させます
				3	ウインタースポーツを振興します
		2	スポーツを通じた 健康増進	4	スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります
				5	冬季における運動習慣を推進します
		3	様々な形・場での スポーツ参加を 促進	6	地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます
				7	スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します
				8	トップスポーツやアスリートと連携を図ります
		目標2	スポーツの力で 「さっぽろ」を かえる	4	スポーツを通じた 共生社会の実現
10	スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します				
5	スポーツを通じた 経済・地域活性化			11	札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、 交流人口の拡大に努めます
				12	札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を 提供します
目標3	スポーツの力で 「世界」へ つながる	6	「さっぽろ」の 魅力を世界に発信	13	国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ 札幌の魅力を発信します
		7	世界が憧れる ウインタースポーツ の拠点都市へ発展	14	オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します
				15	札幌ブランド、シビックプライドを醸成します



## 2 各目標の方針・施策

### 目標1 スポーツの力で「市民」がかがやく

◎：新規事業 ☆：レベルアップ事業  
●：継続事業

市民が地域で「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに関わり、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指します

### 方針1 ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進

#### 施策① 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンへのスポーツ参加を目指します

主な取組

- ◎スポーツ施設を戦略的に活用したスポーツを始めるきっかけづくりの検討
- ◎ビジネスパーソンや子育て世代に対するスポーツ機運の醸成

#### 歩きやすい街(ウォークブルシティ)を目指して

スポーツ参画人口の拡大とスポーツを通じた市民の健康増進を進めるため、歩きやすい街(ウォークブルシティ)を目指します。ウォーキングの価値や魅力の発信に一層力を入れていくとともに、魅力ある歩くスキークースの設置等について検討します。

また、ラグビーワールドカップ2019™など大規模スポーツイベントの開催時においても、そのイベントの持つ話題性や影響力などを活用したウォーキングムーブメントの醸成手法について検討していきます。

▶▶ 関連：施策1、施策4、施策5、施策13

#### FUN+WALK PROJECT(スポーツ庁)

普段の生活から気軽に取り入れることのできる「歩く」に着目し、「歩く」に「楽しい」を組み合わせることで、自然と「歩く」習慣が身につくようなプロジェクト。ビジネスパーソンを中心に2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた国民全体の取組として、本格的なスポーツをする人のみならず、日々の暮らしの中で気軽に体を動かす人も含めて、スポーツ参画人口の拡大を進めています。



#### 施策② スポーツに親しむための場所や機会を充実させます

主な取組

- ◎新中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)の開館
- ☆スポーツ施設供用時間の延長の検討

#### 施策③ ウィンタースポーツを振興します

主な取組

- ☆ウィンタースポーツ競技大会の開催支援

#### ウィンタースポーツ塾の開催

幅広くウィンタースポーツを体験できる「エントリーコース」と高いレベルの指導を受ける機会を提供する「エキスパートコース」に分けて開催しています。今後は体験機会を拡大し、競技力向上等にも努めていきます。

〈体験競技〉 スノーボード、リュージュ、スキージャンプ、クロスカントリースキー、フィギュアスケート、カーリング





## 方針2 スポーツを通じた健康増進

### 施策④ スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

主な取組 ◎ビジネスパーソン・女性の健康づくりの推進

### 施策⑤ 冬季における運動習慣を推進します

主な取組 ・歩くスキーの普及振興

## 方針3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進

### 施策⑥ 地域での取組を支援し地域コミュニティの醸成につなげます

主な取組 ・地域スポーツクラブの活動支援

### 施策⑦ スポーツを支える人材を育成し活動を促進します

主な取組 ・スポーツボランティアの活動及び研修機会の提供

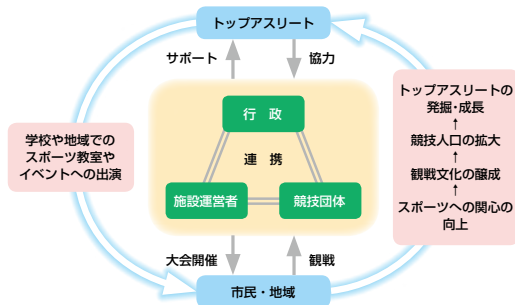
### 施策⑧ トップスポーツやアスリートと連携を図ります

主な取組 ◎大学のスポーツ資源をいかした連携  
☆プロスポネットSAPPOROによる取組

### トップアスリートと地域におけるスポーツ活動の好循環

市民がオリンピックなどのトップアスリートと身近に触れあう機会は、スポーツへの関心を高めるきっかけとなり、観戦文化の醸成や競技人口の拡大につながっていきます。

このため、これまでの学校や地域との連携に加えて、施設運営者や競技団体との連携を強化していくことも重要です。今後は、スポーツ施設でトップアスリートのセカンドキャリアなどを活用しながら、例えば、スポーツ少年団における選手育成や競技力向上を図ることで、次世代のアスリートの育成へとつながる好循環を目指します。



### プロスポネットSAPPORO

「スポーツの力でまちを元気に！ プロスポーツのあるまちSAPPORO」

札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム(北海道日本ハムファイターズ・北海道コンサドーレ札幌・レバンガ北海道・エスポラーダ北海道)と設立した「プロスポネットSAPPORO」と連携・協力して、共通目標である「スポーツを通じたまちづくり」を進めていきます。



©HOKKAIDO NIPPON-HAM FIGHTERS



©CONSADOLE



©LEVANGA HOKKAIDO



©ESPOLADA

#### 協力内容

- ・スポーツの裾野の拡大、観る文化の醸成
- ・スポーツ振興、アマチュアスポーツの支援
- ・シティプロモートやスポーツツーリズムの推進

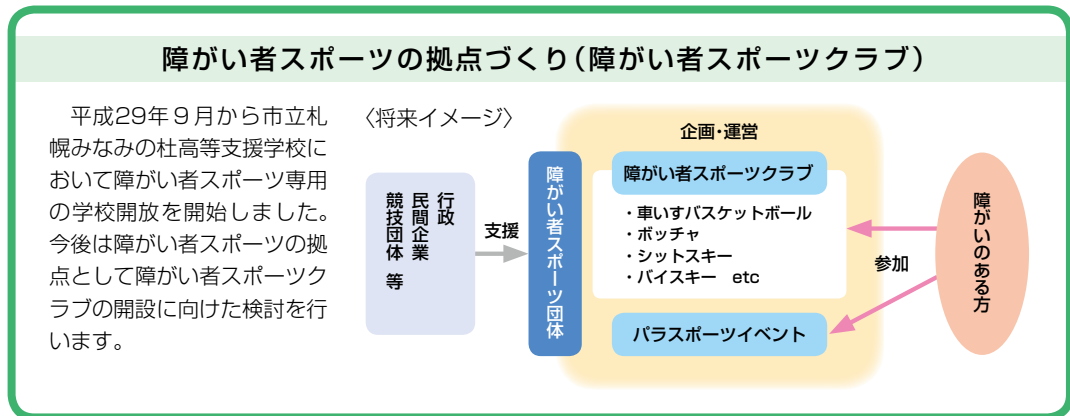
## 目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで、より活力ある「さっぽろ」を目指します

### 方針4 スポーツを通じた共生社会の実現

#### 施策⑨ 障がい者スポーツを振興します

主な取組 ◎区体育館における障がいのある方の利用促進



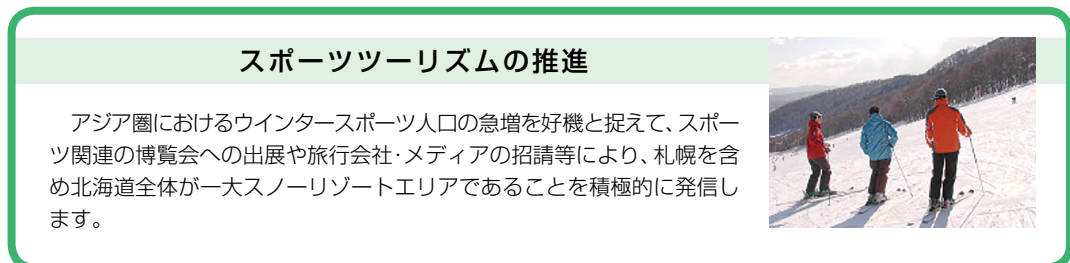
#### 施策⑩ スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します

主な取組 ◎ラグビーワールドカップ2019™の開催を契機とした国際交流

### 方針5 スポーツを通じた経済・地域活性化

#### 施策⑪ 札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めます

主な取組 ☆さっぽろグローバルスポーツコミッションによるスポーツツーリズムの推進・海外代表合宿の誘致



#### 施策⑫ 札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

主な取組 ☆大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ  
◎札幌ドームの活用促進の検討

### 目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

世界が憧れるまちを目指し、冬季オリンピック・パラリンピックの招致や、国際大会の開催などを通じてウィンタースポーツ拠点都市としてのブランドを高め、その魅力を発信し、世界につながることを目指します。

#### 方針6 「さっぽろ」の魅力を世界に発信

##### 施策⑬ 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します

主な取組 ◎ラグビーW杯2019、東京2020サッカーの開催

##### 施策⑭ オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します

主な取組 ◎1972年札幌オリンピック50周年記念事業の実施検討  
☆札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進

#### 方針7 世界が憧れるウィンタースポーツの拠点都市へ発展

##### 施策⑮ 札幌ブランド、シビックプライドを醸成します

主な取組 ◎スポーツを核としたまちづくりの研究

#### 冬季版ハイパフォーマンスセンターの誘致に向けた取組

スポーツ科学・医学・情報を取り入れたトレーニングや、長期合宿等を集中的・継続的に行える拠点を整備することで、オリンピック・パラリンピックなど、世界の舞台で活躍できる人材の輩出を目指します。

〈期待される効果〉

- ①冬季競技アスリートの活動拠点 ②競技レベルの向上
- ③ウィンタースポーツ人口の拡大 ④障がい者スポーツ環境の整備



味の素ナショナルトレーニングセンター



国立スポーツ科学センター

## 1 市民や関係団体との協働

スポーツの力で「さっぽろ」の未来をつくり、「スポーツ元気都市さっぽろ」の実現を目指していくためには、行政のみならず、市民やスポーツ関係団体、そして企業や大学など、様々な主体との連携が欠かせません。

これらの関係する様々な主体と、本計画における取組を協働して進めていくことで、着実にスポーツの振興を推進していきます。

### 〈スポーツ推進のための協働団体〉

行政(札幌市)、市民、体育振興会及びスポーツ推進委員、札幌市体育協会及び競技団体、さっぽろ健康スポーツ財団、札幌市障がい者スポーツ協会、さっぽろグローバルスポーツコミッション、トップスポーツチーム、企業、大学など。

※その他、市の施設を運営する株式会社札幌ドーム、株式会社札幌振興公社などといった指定管理者や、スポーツ施設を運営する民間事業者とも協力していきます。

## 2 将来を見据えた施設の在り方や配置の検討

昭和47年(1972年)の冬季オリンピック開催前後に建てられたスポーツ施設は、建設から40年以上が経過しており、今後は、老朽化に伴う修繕等に要する経費が急増していくとともに、更新時期が一齐に到来することから、財政運営に大きな影響を及ぼすことが見込まれています。

今後の人口減少、本格的な超高齢社会の到来や、多様化するニーズに対応しながら、将来にわたって市民がスポーツに親しめる環境を維持していくためには、今後見込まれる市税収入等の減少や、社会保障関係費用の増加も考慮しながら、中長期的な視点をもって、計画的な施設の更新や長寿命化の実施等を行っていく必要があります。

このようなことから、これまでの画一的な基準による施設整備ではなく、今後は、時代の変化に適応しながら、地域ニーズを考慮したバランスの良いスポーツ施設の在り方を検討していく必要があります。

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」や、これに基づく「札幌市市有建築物の配置基本方針」で示された「施設維持から機能重視へ」という考え方、そして、冬季オリンピック・パラリンピック招致に向けた計画とも整合を図りながら、将来を見据えたスポーツ施設の在り方や配置、民間施設や他の公共施設の活用などについて、スポーツ施設の配置・活用計画を策定します。

## 3 計画の進行管理

札幌市自治基本条例を踏まえ、市民との協働により、計画を推進していきます。

計画の進捗状況は、毎年度、札幌市スポーツ推進審議会で報告を行うとともに、日頃から札幌市の取組や課題を積極的に発信していきます。

# 札幌市スポーツ推進計画(改定版)ー概要版ー

令和元年(2019年)7月発行

企画・編集：札幌市スポーツ局スポーツ部企画事業課

〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 ばらと北一条ビル6階

電 話：011-211-3044 FAX：011-211-3046





© SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO



さっぽろ市  
01-E01-19-1388  
31-1-109

**SAPPORO**